＜親子コミュニケーション応援編＞

教材番号　　**ｺ—5**

対象（時間）：概ね２，３歳～６歳児の親　(50分程度)

**備えあれば怒りなし！？**

**～**

【ねらい】　お店での行動を「約束」してから行くマンガを通して，事前に説明したり約束したりすることの大切さについて考える。

【準備物】 学習者：筆記用具

主催者：名札，ワークシート，模造紙，付箋紙，フェルトペン（裏写りのしないもの），アンケート用紙

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 時　間 | アクティビティの展開例 | 留　　意　　点 | 備　考 |
| : | ○名札付け（来た順に） | ○全員が名札をつける。（ニックネーム可） | ※スケジュールを板書しておく。  ※机は４～５人程度の小グループ |
| ：  (３分) | ○ファシリテーター（学習支援者）  　自己紹介，主旨・ルールなどを説明する。 | ○和やかな雰囲気づくりを心がける。  ○写真を撮る場合は，前もって許可を得る。  ○「親子コミ」三つの特長(親等の悩みに対応，子供の  気持ちを理解し自己を振り返る，具体的な子供との接し方についてを情報提供)をファシリテーターが理解した上で，「子供の気持ちに共感した接し方，コミュニケーションの方法を，具体的にみんなで学びましょう」などと参加者に呼びかけ進める。 |
| ：  (５分) | **○アイスブレイク（雰囲気づくり）**  「テーマに関する自己紹介」  ①名前  ②子供の数・年齢  ③子供と一緒にやってみたいこと  ※時間に余裕があれば  →ペアで自己紹介する  →グループで他己紹介する  という流れで進めることもできる。 | ○自由に意見を出し合うためのウォーミングアップと  する。  ○自己紹介の後で「子供と一緒に楽しい時間が過ごせたら，うれしいですよね。今日はそんなエピソードから考えていきましょう」などと教材の内容に入っていくと良い。 |
| ：  (10分) | ○タイトル，ねらいを読む。 **＜マンガを読んで考えましょう＞**  ○マンガ上段を読む。  ○マンガ下段を読んで考える。  ○設問①②に記入し，話し合う。 　※口頭で考えを交流し合う方法  もある。  ※時間に余裕がある場合には，マンガのエピソードを親役，子役になってロールプレイすることで，好ましい関わりに気づく方法もある。 | ○三つの約束＋１（発言の平等，人の発言を肯定，秘密の保守とパス有）を知らせる。  ○イラスト，セリフ，猫の言葉などをファシリテーターの言葉で丁寧に伝える。  ○上段では，自分で考えて，ポジティブな方法を選んでいる流れを押さえる。  ○下段では，３コマ目は家での約束，４コマ目はお店での様子で親子共に笑顔であることを押さえ，考えるようにする。  ※具体的な言葉かけや対応についてだけでなく，子供の気持ちや親の気持ちについても考えるよう促す。 ※ファシリテーターがいくつかの意見を伝えるなどして全体交流とする方法もある。  ※お店で座る位置を工夫することで，子供の動きを抑制する方法もある。  ※ロールプレイをした場合は，その時の親子の気持ちを想像することができるよう声掛けをする。 | ※ワークシートは回収しないこと，正解があるわけではないので，自由に書いたり話したりして構わないことを伝える。 |
| ：  (22分) | **＜考えましょう，出し合いましょう＞**  ○設問③について記入し，話し合う。  ※買い物，片付け，公園遊びなどの場面から思い出して記入する。  ○話し合ったことを紹介する。 | ○設問③について，ラベルワークで行うことが効果的。 ※予め模造紙に罫線や項目等を記入しておき，時間短縮の工夫をする方法もある。  　※時間がない場合には，項目を一つに絞って，話しても良い。  ※「付箋紙１枚につき，１つ書く」「簡単で良い」などを伝える。  ○困ったこと，うまくいかなかったことなど，同じような経験をしたことがないか振り返り，その時の子供の様子や気持ちを考える。  ※子供に伝わりやすい言葉かけや対応について考える。  ○子供の問題を「性格」ではなく「行動」に焦点を当てて捉えることの大切さに触れる。 | ※話し合うことで安心感が生まれることを分かってもらう。 |
| ：  (５分) | **＜ファシリテーターからの説明＞**  ○参考資料１のグラフ，参考資料２「親子のコミュニケーションサイクル」の紹介  ○参考資料３「親子のコミュニケーションに生かしてみては」の説明  ※ニコニコサイクルにつながるコツ，ポイントとして押さえても良い。 | ○グラフから子育てに悩みを持つ人が少なくないことを押さえる。  ○資料等を活用し，必要に応じて次の点を伝える。  ・事前に説明したり，具体的な約束をすることで子供は行動しやすくなる。  ・練習の場面でも実際の場面でも，できたことや努力したことをしっかりとほめる。  ※イライラサイクルを否定するのではなく，日頃の子供への接し方を見つめ直す機会とし，イライラする関わりが少なくできると良いことを伝える。  ○Ｐ２のネコの言葉，参考資料３のネコの言葉のつながりを考え，「具体的な約束をすることで，子供が安心すること」を押さえる。 | ※図(サイクル)を  見せながら説明 する。 |
| ：  (５分) | **＜学習を振り返りましょう＞**  ○ワークシートに記入する。  ○気付きの共有 | ○すぐにはうまくいかないかも知れないが，できることから試してみることの大切さを伝える。  ※参加者一人一人に感想を聞いても良い。  　※時間がない場合は，目を閉じ，自分自身で振り返る方法もある。  　※ファシリテーターからの感想があっても良い。 | ※ワークシートに無理に記入しなくても良いが，省略はしない。 |
| ： | ○終了・片付け  ○アンケート記入 | ○参加者全員で行う。  ○アンケート記入者から流れ解散 | ※現状復帰 |
| 〈メモ〉 | | | |